

原 著

性的マイノリティに対する 大学生の意識と態度：第4報

—2016年度～2019年度の調査結果から読み取れる学生の傾向—

正木 啓子¹⁾ 小 倉 浩²⁾ 須長 史生^{*2)}
倉田 知光²⁾ 堀川 浩之²⁾

抄録：筆者らは2016年度～2020年度の5か年にわたる「インターネットを活用したセクシュアル・マイノリティに関する学生の意識調査」を企画しており、本稿はその4年目（2019年）の実施内容に関する結果報告となる。本研究の目的は18歳～20代前半の男女の、性的マイノリティに対する意識や態度を明らかにすることである。調査対象は2016年度から2018年度までと同様に、首都圏の医療系A大学一年生とした。今回の調査では在籍学生数576名に対して、522名（男子155名、女子364名、その他3名）からの回答が得られ、回収率は90.6%であった。プライバシーの確保と回収率の向上のために、前3回の調査と同様インターネットを活用し、スマートフォンを用いたアンケートに回答する方法で調査を実施した。アンケートの集計結果より、以下の知見が得られた。(a)回答者のホモフォビア的な回答傾向は明確に減少傾向にある。(b)性的マイノリティに対する正確な知識の修得欲求が増加し続けている。(c)典型的なジェンダー規範に対して同意しない学生が増え続けている。そして(d)性的マイノリティに対する共感的な理解や態度は継続的に増加している。とりわけ、性的マイノリティに関する正確な知識を取得したいと望む積極的な意識を有する学生が2019年度の調査では84%と多数派を占めていることは注目に値する。これらより、大学に入学してくる新入生の性的マイノリティに対する意識は年々平等主義的になっていることがわかる。このことは多様な学生による共生に道を拓くだけでなく、その多様性から価値ある教育効果を導きうる可能性をも示唆するものでもある。大学にはこのような可能性に鑑みて、性的マイノリティに関する適切なカリキュラムを用意するとともに、それを実践する教員の十分な資質の向上をサポートする体制を整えることが求められる。

キーワード：性的マイノリティ、オンライン調査、ホモフォビア

緒 言

本稿は、10代後半～20代前半の学生の性的マイノリティに対する意識や態度を実証的に明らかにすることを目的に、執筆者5名により実施している「インターネットを活用した性的マイノリティに関する学生の意識調査（以下、「性的マイノリティ調査」）」の結果およびそれに対する考察の第4報にあたる。この調査は、首都圏にある私立大学（以下、A大学）に通う一年生を対象に、2016年度から継

続して毎年実施しているものである。本報告では、2019年度の調査結果を報告するとともに、2016年度～2019年度までの調査結果の蓄積に基づいて、性的マイノリティに対する意識、態度の特徴的な経年変化についても可能な限り明らかにする。過去3か年の各年度の調査結果から読み取れる特徴については、それぞれ第1報～第3報¹⁻³⁾ですでに報告したが、本報告はそれらの結論のうち特に第3報³⁾において報告した主要な知見をさらに強化し、その根拠を補強するものとなっている。

¹⁾ 昭和大学学事部

²⁾ 昭和大学富士吉田教育部

* 責任著者

〔受付：2021年3月16日、受理：2021年6月1日〕

調査結果から読み取ることができる特徴的な経年変化を検討、考察する際には、大学における性的マイノリティとの共生という課題を常に念頭に置く必要がある。現状の性的マイノリティに対する意識や態度がどうであるのか、経年的な特徴的な変化はどうであるのかを的確に認識した上で、大学として必要な方策を考えることが必要であり、本報告においてもこの視点からの検討を行う。

なお、本報告では、性的マイノリティに対する学生の意識や態度の特徴的な経年変化について、各設問の回答集計結果に基づいて議論を行う。さらに、本報告で明らかとなったそれぞれの設問に対する回答の経年変化を総合して、学生集団全体としてどのような特徴的な方向性の変化があったのかを議論することも当然必要である。この議論を通じて、性的マイノリティに対する意識や態度を規定する重要な規定因子が明確化される。しかし、その分析には主成分分析、因子分析などの統計手法を併用した解析が必要となる。そこで、学生集団全体としての総合的な傾向変化についての議論は、別の機会に報告する。

研究方法

1. 調査概要

本調査は、2016年度～2018年度にかけて行った調査と同様に、2019年度 A 大学の一年生を対象として行われた。調査対象者概要を表1に示す。2016年度～2018年度にかけては、回収率はほぼ同程度で約76%であるが、2019年度調査において回収率が約91%と顕著に増加している。

設問内容としては、2016年度調査から継続している性的マイノリティに対する意識・態度を問う中

心的な設問に加えて、2017年度にはジェンダー規範や行動倫理に関する設問を追加し²⁾、さらに2019年度において、ジェンダー自尊心と共感体験・被共感体験の有無を問う設問を追加した。2019年度調査の設問の詳細については、添付資料2をご参照いただきたい。

2. 情報収集方法

情報収集方法は、2016年度～2018年度の方法を踏襲している。すなわち、Webサイト上に表示されるアンケートに各個人が回答を入力する方法で調査対象者の回答を収集した。この方法の利点として、回答収集過程の省力化、情報管理責任者の負担軽減、情報漏洩の危険性の低減などが挙げられる¹⁻³⁾。

回答の収集は、2019年10月28日第1時限～第4時限の人文社会系必修科目授業終了後の休み時間に行った。実施前の事前説明で、協力は本人の自由意思であること、協力しないことで本人に一切の不利益は生じないこと、回答は個人が特定されない方法で処理されることを説明した。

なお、この調査は昭和大学の「医学部における人を対象とする研究等に関する倫理委員会」に於ける承認（受付番号2073）を得て行われた。

結果

1. 単純集計

本節では、本調査の設問12項目中の3項目（問10.「戸籍上の性別」、問11.「戸籍上の性別への違和感」、問12.「セクシュアリティ」）を除いた9項目において、これらをトピックごとにまとめ、調査結果を示す。トピックは、①「客観的知識」②「情

表1 各年度調査の回答数および回収率

年度		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
学生在籍数 (調査時)	男子	207	193	209	177
	女子	364	388	389	399
	合計	571	581	598	576
回答数	男子	137	129	136	155
	女子	300	313	315	364
	その他・未回答	2	3	2	3
	合計	439	445	453	522
回収率		76.9%	76.6%	75.8%	90.6%

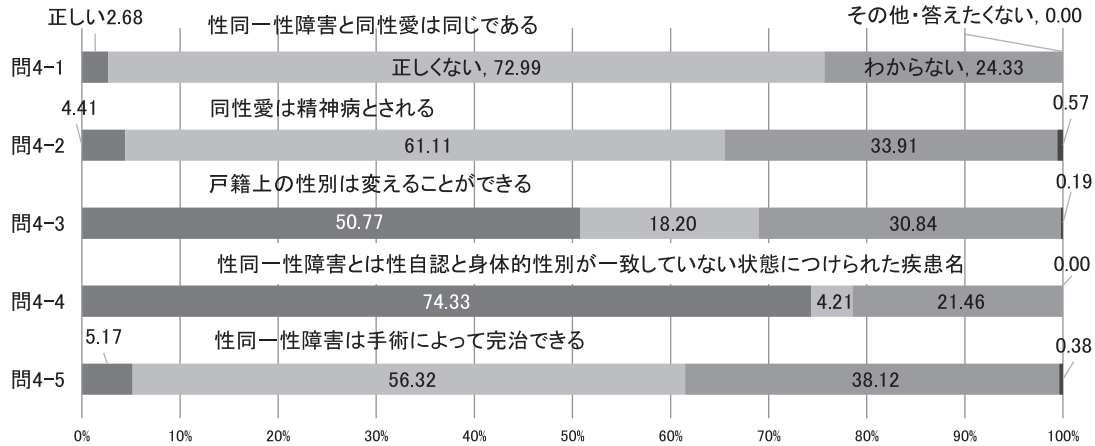


図 1 客観的知識に関する集計結果

報を共有する相手と取得手段」③「接触機会」④「身近な人に対する嫌悪感」⑤「友人（同性）からのカミングアウト」⑥「同性愛に関する見解」⑦「偏見に関する見解」「共感体験・被共感体験の有無」（設問設定の際に問 9 としてまとめたため、ここでもひとつのトピックとして分けずに示す）⑧「ジェンダー自尊心」の 8 つに分類された。各設問の詳細については、トピックごとの報告にて述べる。

1) 客観的知識

本調査では、性的マイノリティに関する正しい知識の習得率について、問 4 において 5 つの設問を設定した。図 1 に集計結果を示す。

問 4 の 5 項目の中で、釜野さおりらが行った全国調査（2015 年第 1 回⁴⁾、2019 年第 2 回⁵⁾）でも実施しており、本調査において 4 か年通して実施した設問である問 4-2、問 4-3 の 2 項目に注目して、その調査結果の経時変化をみていく。

問 4-2「日本では同性愛は精神病とされる」において、本調査の正解率は 61.1% となり、過去 3 年間のものと比較すると 2017 年度調査の正解率より 1.1 ポイント高く、2018 年度調査の正解率より 2.0 ポイント低く、2016 年度調査の正解率より 12.2 ポイント低くなった（添付資料 1 図 A (a)）。また、全国的な傾向と本調査の正解率との比較を行ったところ、全国調査の 2015 年（第 1 回）の 20-30 代の正解率 60.0% とほぼ同等程度であり、2019 年（第 2 回）の 20-30 代の正解率 50.7% より 10.4 ポイント高い結果となった。

問 4-3「日本では、戸籍上の性別を変えることが

できる」において、本調査の正解率は 50.8% となり、これは過去 3 か年の中でもっとも低く、最も正解率が高かった 2016 年度調査の正解率 62.4% より 11.6 ポイント低くなった（添付資料 1 図 A (b)）。しかし、本調査の正解率は、全国調査の 2015 年（第 1 回）の 20-30 代の正解率 43.9% より 6.9 ポイント高く、2019 年（第 2 回）の 20-30 代の正解率 46.4% より 4.4 ポイント高い結果となった。

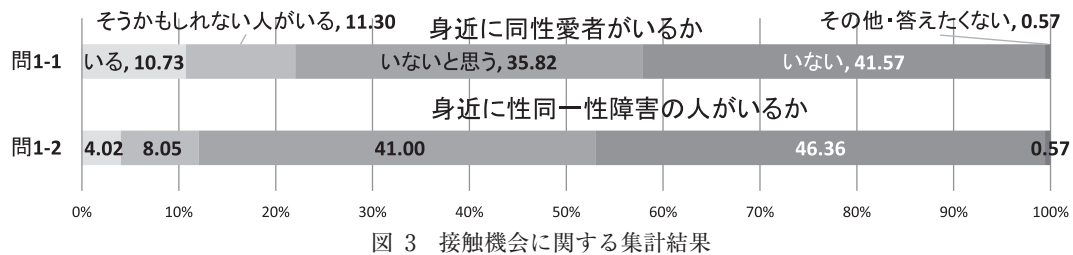
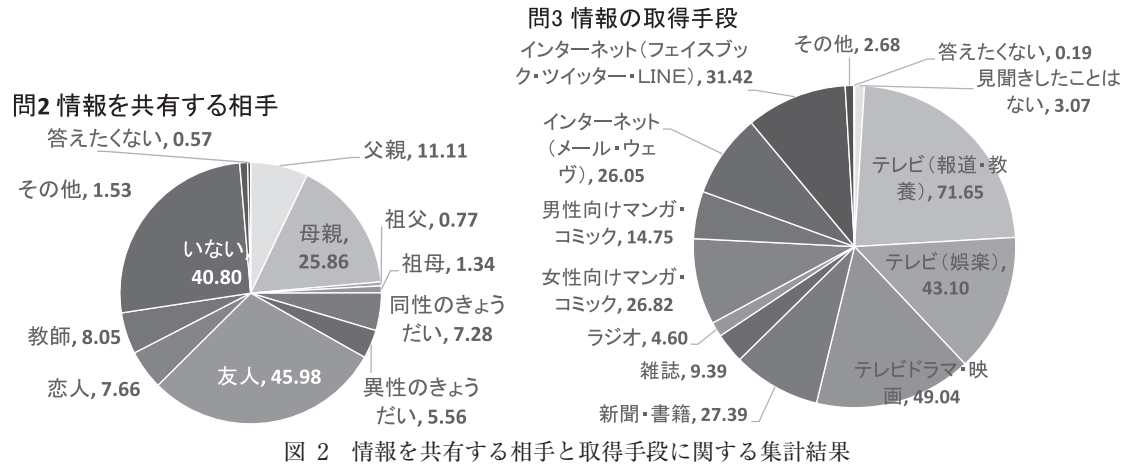
本調査の結果は 4 か年で比較すると多少の差異はあるものの、全国調査と比較すると年齢相応かより高い結果となっていた。

加えて、問 5 では、性的マイノリティについて正しい知識を身につけたいか、学生の知識習得への意欲についても聞いた。「とてもそう思う」、「そう思う」という 2 つの肯定的な回答を足すと 84.3% となり、4 か年の中でもっとも高く、正しい知識習得への意欲については、年々高まっていることが推測された（添付資料 1 図 B）。

2) 情報を共有する相手と取得手段

性的マイノリティに関する情報を共有する相手については、問 2 において複数回答可にて聞いている。結果、最も多い回答は「友人」240 人（46.0%）、次いで「いない」213 人（40.8%）、「母親」135 人（25.9%）の順となり、年度による変化はあまりなかった（図 2）。

情報の取得に関しては、問 3 において複数回答可にて聞いている。結果、「メディアで見聞きしている」割合は総数の 96.9% であり、年度による変化はなく、全国調査の 2015 年（第 1 回）の 20-30 代の



正解率 92.2%とほぼ同程度であった。本調査において、もっとも多く見聞きされていたメディアは、「テレビ(報道・教養番組)」374人(71.6%)、「テレビドラマ・映画」256人(49.0%)、「テレビ(娯楽番組)」225人(43.1%)の順となり、これも年度による変化はあまりない(図2)。

「情報を共有する相手」と「取得手段」に関する集計結果は複数回答可であるため、各項目の回答数を回答者総数で除した結果を割合として示した(図2)。

3) 接触機会

問1では、性的マイノリティの人との接触機会について聞いている。結果、同性愛者については、「いる」10.7%、「そうかもしれない人がいる」11.3%となり、性同一性障害の人については、「いる」4.0%、「そうかもしれない人がいる」8.1%と回答していた。「いる」、「そうかもしれない人がいる」を足すと「同性愛者」22.0%、「性同一性障害の人」は12.1%となり、さらに「同性愛者」22.0%と「性同一性障害の人」12.1%を足すと34.1%が性的マイノリティの人と接触していたことが推測された(図3)。

本調査において、性的マイノリティの人と接触機

会を持っていた割合は、2017年度調査の31.0%と比較すると3.1ポイント高く、2018年度調査の24.3%と比較すると9.8ポイント高い結果となった。

4) 身近な人に対する嫌悪感

問5-1～問5-3において、身近な人が性的マイノリティである場合の嫌悪感について「あなたの知人」、「同じ大学の人」、「あなたのきょうだい」が同性愛者だった場合、あるいは性同一性障害の人だった場合の気持ちについて聞いている。結果、「嫌ではない」、「どちらかというとなんか嫌ではない」の合計は、「知人」では、同性愛者だったら87.0%、性同一性障害の人だったら88.1%となった。また、同様に「同じ大学の人」が同性愛者だったら「嫌ではない」、「どちらかというとなんか嫌ではない」の合計は88.1%、性同一性障害の人だったら90.4%となり、「知人」、「同じ大学の人」については、9割程度が「嫌ではない」、「どちらかというとなんか嫌ではない」との気持ちを示していることがわかった。

しかし、「あなたのきょうだい」においては、「嫌ではない」、「どちらかというとなんか嫌ではない」の合計は、同性愛者だったら71.1%、性同一性障害の人

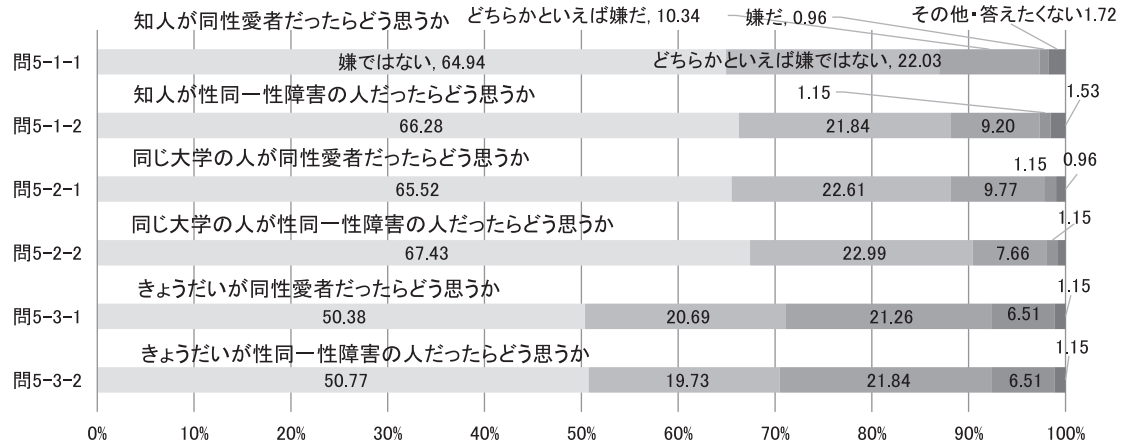


図 4 身近な人に対する嫌悪感に関する集計結果

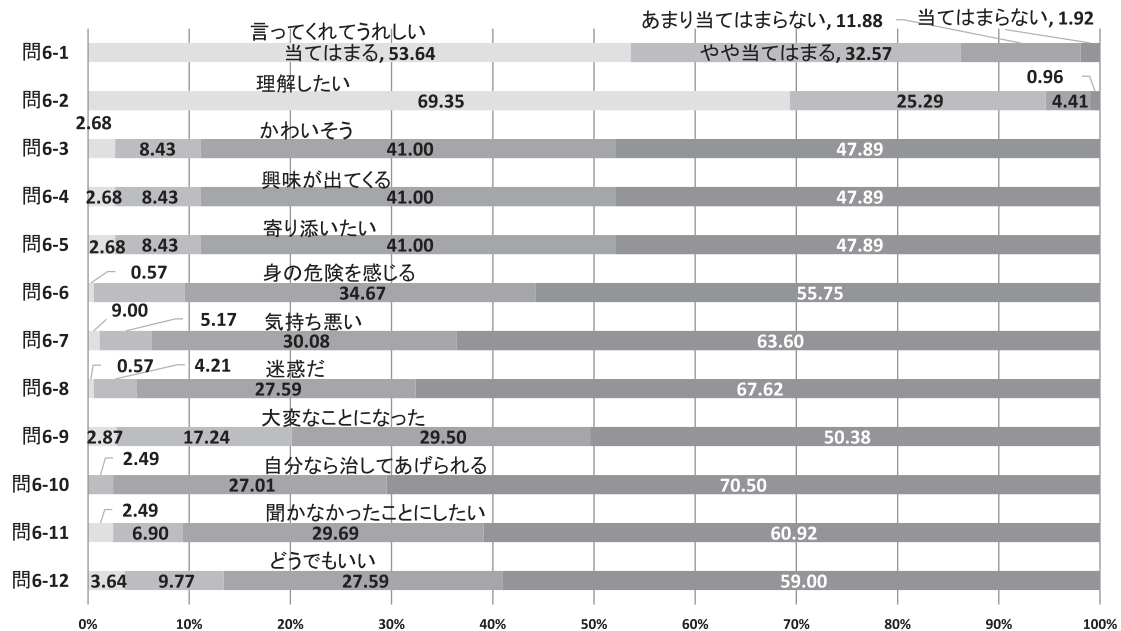


図 5 友人（同性）からのカミングアウトに関する集計結果

だったら70.5%となった。まとめると「嫌ではない」、「どちらかという嫌ではない」は7割程度となった（図4）。この傾向は、全国調査の結果と同様であり、関係が近い人ほど嫌悪感を示す人が多くなることを示しているといえる。

嫌悪感に関しては、2016年度調査は同性愛者についてのみ聞いているため、ここでは同性愛者について注目して4か年の推移をみたい。同性愛者だった場合の肯定的回答、否定的回答の割合はすべての項目において肯定的回答の割合が年々増加し、否定

的回答の割合が年々減少していた（添付資料1図C(a)～(c)）。すなわち、同性愛者だった場合の嫌悪感は減少傾向にあることが推測される。この傾向は全国調査の全年代でも同様の傾向であった。

5) 友人（同性）からのカミングアウト

問6では、同性の友人からカミングアウトされた場合の気持ちや態度を4件法にて聞いている。結果、本調査において最も回答の割合が多かったものに注目すると、「自分なら治してあげられる」は「当てはまらない」70.5%、「理解したい」は「当ては

性的マイノリティに対する学生の意識と態度

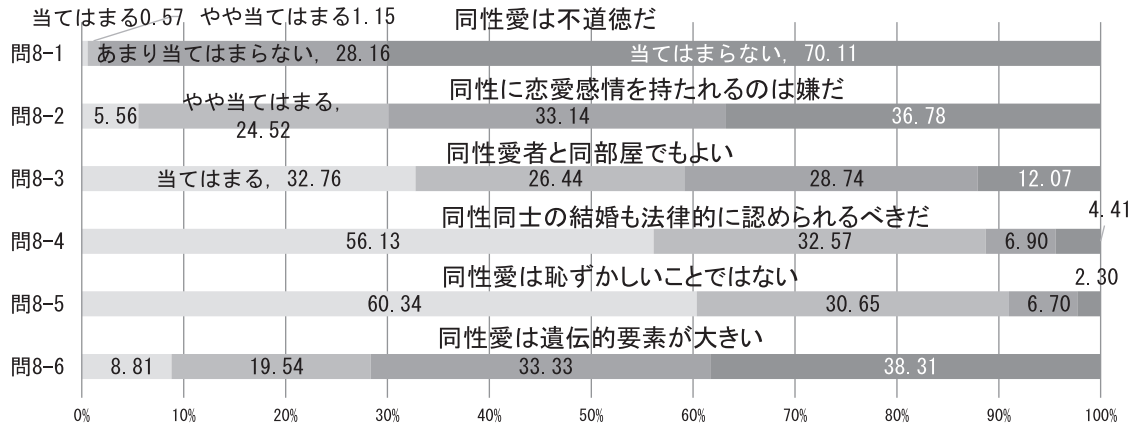


図 6 同性愛に関する見解についての集計結果

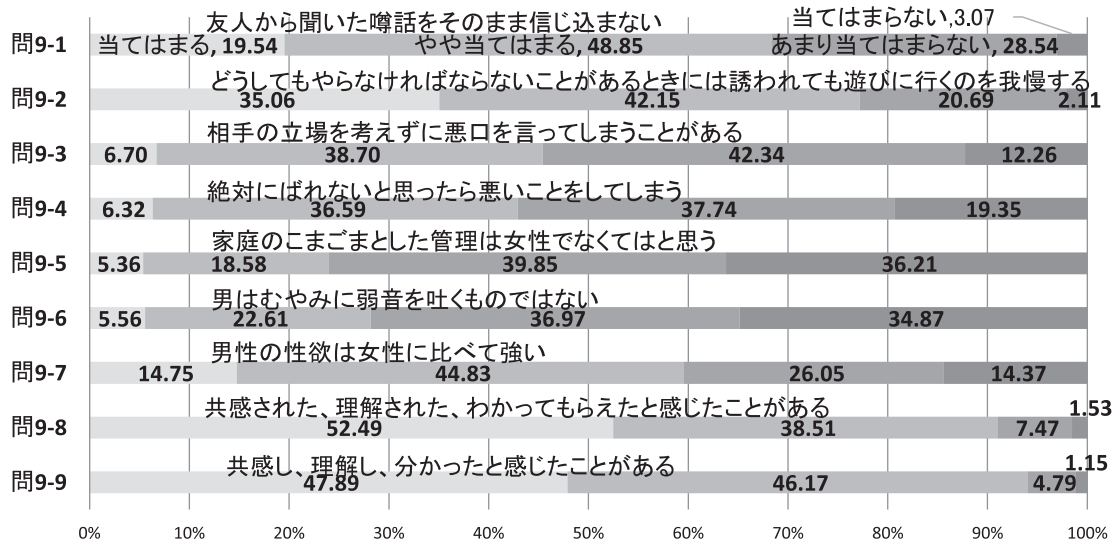


図 7 偏見に関する見解についての集計結果

まる」69.4%、「迷惑だ」は「当てはまらない」67.6%の順になった(図5)。

2016年度調査は回答方法が異なっていることから、2017年度から本調査までの3か年の回答割合の比較を行う。それによると、「気持ち悪い」に「当てはまる」と回答した割合は年々減少し、一方で、「理解したい」に「当てはまる」と回答した割合は年々増加しており、友人が同性愛者であることに対する嫌悪感は低減し、逆に共感的態度が強化されていることが推測される(添付資料1図D(a)(b))。

6) 同性愛に関する見解

問8では、同性愛に関する意見や考えについて、4件法で聞いている。結果、本調査において最も回答の割合が多かったものに注目すると、「同性愛は

不道德だ」は「当てはまらない」70.1%、「同性愛は恥ずかしいことではない」は「当てはまる」60.3%、「同性同士の結婚も法律的に認められるべきだ」は「当てはまる」56.1%の順になった(図6)。

本設問は2017年度調査より新設した設問であり、同性愛についての共感的な見解について同意するかどうかの回答割合を2019年度調査までの3か年で比較した結果、「当てはまる」と回答した割合は年々増加していた(添付資料1図E(a)~(c))。すなわち、同性愛に対して肯定的な見解を持つ学生の割合が年々増加していることが推測される。

7) 偏見に関する見解

問9は、性的マイノリティに対する規範構造を調べるために2017年度調査より新設した設問である。

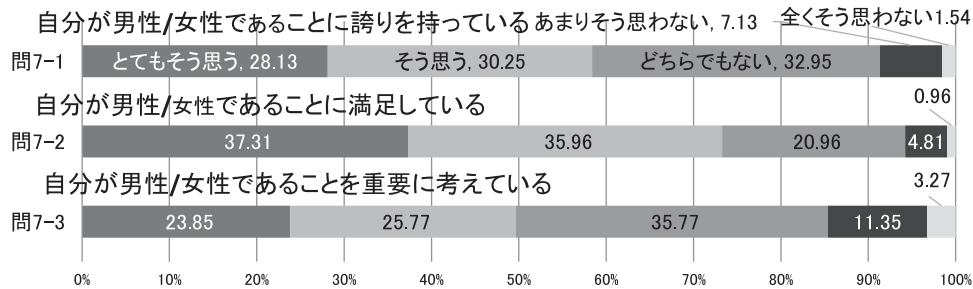


図 8 ジェンダー自尊心についての集計結果

問 9-1 ～問 9-7 に関しては、別稿にて考察を行うため本稿では図 7 に集計結果を示すのみとする。

問 9-8、問 9-9「共感体験・被共感体験の有無」と次に示す問 7「ジェンダー自尊心」については、2018 年度調査より新設した設問であり、別稿にて、先行研究との差異や性的マイノリティに対する態度との関連性について考察を行うため、本稿では集計結果のみを示す。

8) ジェンダー自尊心

「自分が男性 / 女性であることを誇りに思っている」など性別に基づくアイデンティティへの自己評価であるジェンダー自尊心との関連において男性異性愛者は、ジェンダー自尊心が高いほど同性愛者に対して否定的であるとの先行研究がある⁶⁾。問 7 は、ジェンダー自尊心と性的マイノリティに対する態度との関係を検討するため、2018 年度調査より新設した設問である。図 8 に集計結果を示す。

まとめと考察

以上 2018 年度に行なった調査結果についてその概略を示してきた。本調査の特徴についてまとめると以下の 7 点が挙げられる。①性的マイノリティについて正しい知識を有している割合は 2017 ～ 2019 年度のあいだでは大きな変化は見られないが、全国調査の学歴別年代別データと比較すると若干高い結果となっている。②正しい知識習得への意欲は高く、年々増加している。③性的マイノリティ当事者との接触機会（経験）については、同性愛者の場合 8 ～ 11%，性同一性障害者が 3 ～ 5% となっている。④身近な同性愛者、性同一性障害者に対する嫌悪感については年々顕著に減少している。⑤同性の友人からのカミングアウトについては否定的な応答が減少し共感的な応答が増加している。⑥同性愛

者に対する見解でも共感的な傾向が増加している。⑦ジェンダー規範については伝統的な性差観に共感しない人の割合が増加している。

特に④⑤⑥は注目に値する。性的マイノリティは、偏見や好奇の眼差しにさらされることと常にセットで考えられがちであるが、単純集計を見る限り、実は全体の傾向としてはそれは逆である。本調査ではむしろ周囲には共感的もしくは親和的な姿勢が多数を占めている。そしてその傾向は年々強化されている。他方、例えば知人が「同性愛者」あるいは「性同一性障害の人」だったらどう思うか、の問いにはっきりと「嫌だ」と回答する者、および同性の友人からのカミングアウトを「気持ち悪い」と回答する者は、それぞれわずか 1% と 2% であり、1 割にも遠く及ばない。参議院常任委員会調査室・特別調査室の中西⁷⁾によると、電通や総評の大規模調査では性的マイノリティを自認する人の割合が約 8% であるとされており、これと比べると、実は本当の少数派は「性的マイノリティ」ではなく、「性的マイノリティを明確に拒否・嫌悪する人々」の方であることがわかる。

大学における性的マイノリティとの共生を考えるとき、彼らの人権に配慮しプライバシーを守ることがまず第一に考えるべきことである。しかし現状をみるとそれ以上に必要なのは差別や偏見を拒む文化、多様性の理解を推進する価値観の養成の方なのではないだろうか。当事者を隠蔽することで問題を回避するのではなく、差別を拒む価値観、多様性を認める文化を確立することによってこそ真の共生やさらに一歩すすんで「ダイバーシティ」の推進が可能となるからだ。ここでいう「ダイバーシティ」とは社会学者の山口一男にならない人間の多様性に価値を置き、それを生かした社会構築を目指すバリュー

イング・ダイバーシティ (valuing diversity) という思想に根差した多様性の尊重を意味している⁸⁾。ただ単に多様な人が一緒に生活し学ぶだけでなく、その多様性が生み出す価値を積極的に教育的営為に生かすことが大学にとっての「ダイバーシティ」の尊重、推進といえるだろう。

その意味で年々増加する「性的マイノリティについて正しい知識を身につけたい」という学生欲求の増加傾向は前向きな展望に道を開くものである。大学はこれらの学生の要望に積極的に応えていく責任があるといえる。

なおこの調査・研究は研究目的を達成するために、さらに性的マイノリティとの共生に関する価値観の規定要因やそのジェンダー別の回答傾向などについての考察が必要となる。これらについては稿を改めて考察するものとする。

謝辞 本調査および研究の実施に際しては「昭和大学富士吉田教育部の共通研究費」より研究支援を受けている。ここに謝意を記す。

利益相反

本研究に関し、揭示すべき利益相反はない。

文 献

- 1) 須長史生, 小倉 浩, 堀川浩之, ほか. セクシュアル・マイノリティに対する大学生の意識と態度 (第1報) インターネットを活用した調査研究. 昭和学生会誌. 2018;77:530-545.
- 2) 須長史生, 小倉 浩, 堀川浩之, ほか. 性的マイノリティに対する大学生の意識と態度 (第2報) インターネットを活用した調査研究. 昭和学生会誌. 2019;79:734-751.
- 3) 須長史生, 小倉 浩, 正木啓子, ほか. 性的マイノリティに対する大学生の意識と態度 (第3報) 3か年のアンケート調査のまとめと提言. 昭和学生会誌. 2020;80:396-421.
- 4) 釜野さおり, 石田 仁, 風間 孝, ほか. 性的マイノリティについての意識. 2015年全国調査発表会資料. 2016年6月.
- 5) 釜野さおり, 石田 仁, 風間 孝, ほか. 性的マイノリティについての意識. 2019年(第2回)全国調査報告会資料. 2020年11月.
- 6) Falomir-Pichastor, J.M. & Mugny, G. "I'm not gay....I'm a real man!". Heterosexual men's gender self-esteem and sexual prejudice. *Pers Soc Psychol Bull.* 2009;35:1233-1243.
- 7) 中西絵里. LGBTの現状と課題 性的指向又は性自認に関する差別とその解消への動き. 立法と調査. 2017;394:3-17.
- 8) 山口一男. ダイバーシティ 生きる力を学ぶ物語 (電子書籍版). 東京: 東洋経済新報社; 2019.

(添付資料1) 単純集計の経時変化

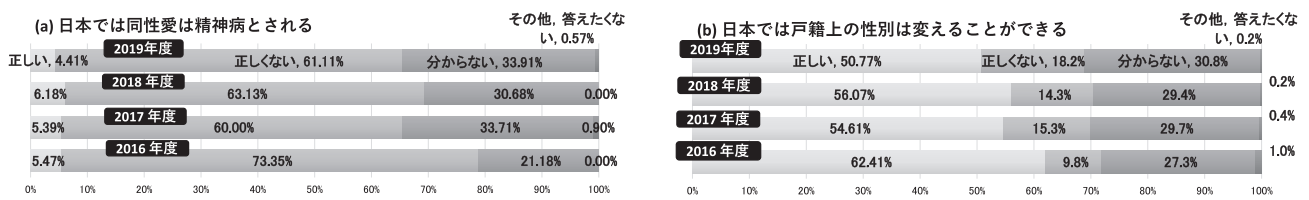


図 A 性的マイノリティに対する客観的知識正解率 4 か年の比較 (2016 年度～ 2019 年度)

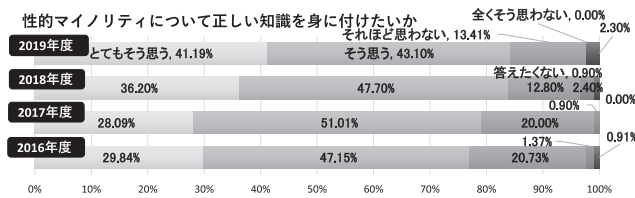


図 B 性的マイノリティに関する客観的知識習得意欲 4 か年の比較 (2016 年度～ 2019 年度)

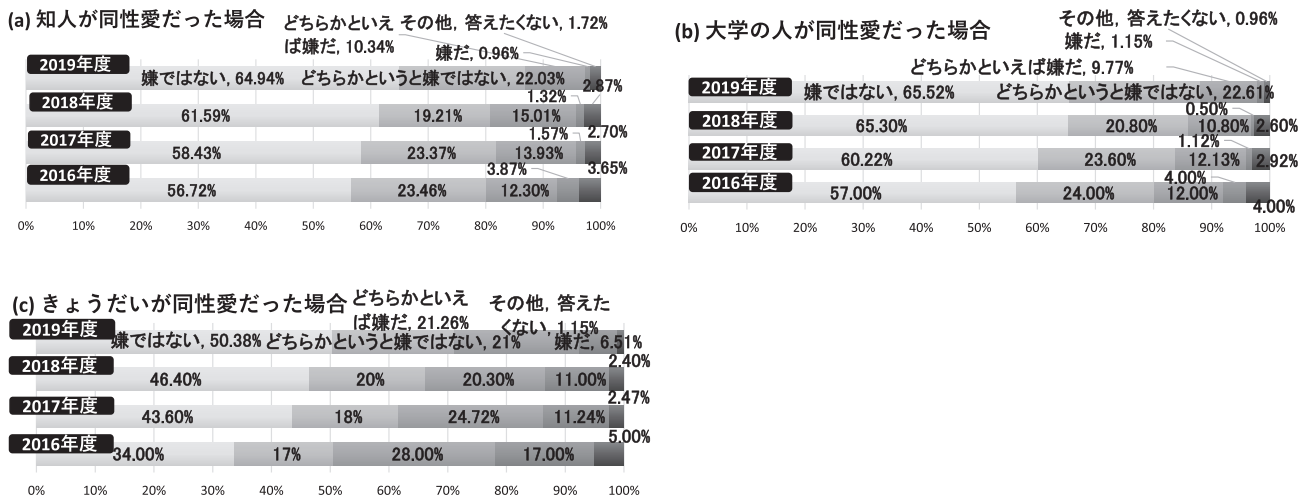


図 C 身近な人が同性愛者だった場合の嫌悪感 4 か年の比較 (2016 年度～ 2019 年度)

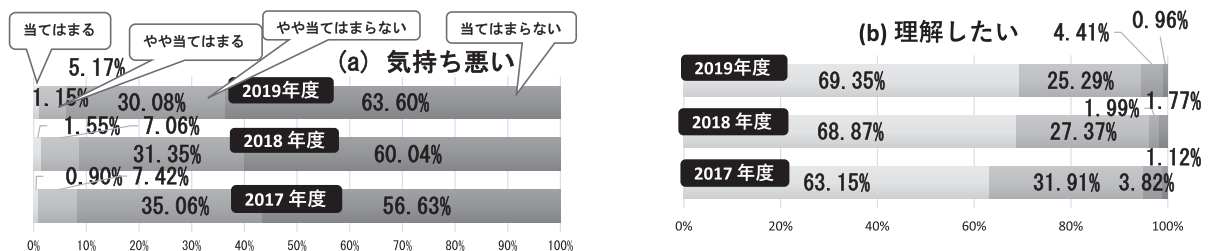


図 D 同性の友人からのカミングアウトに対する応答 3 か年の比較 (2017 年度～ 2019 年度)

性的マイノリティに対する学生の意識と態度

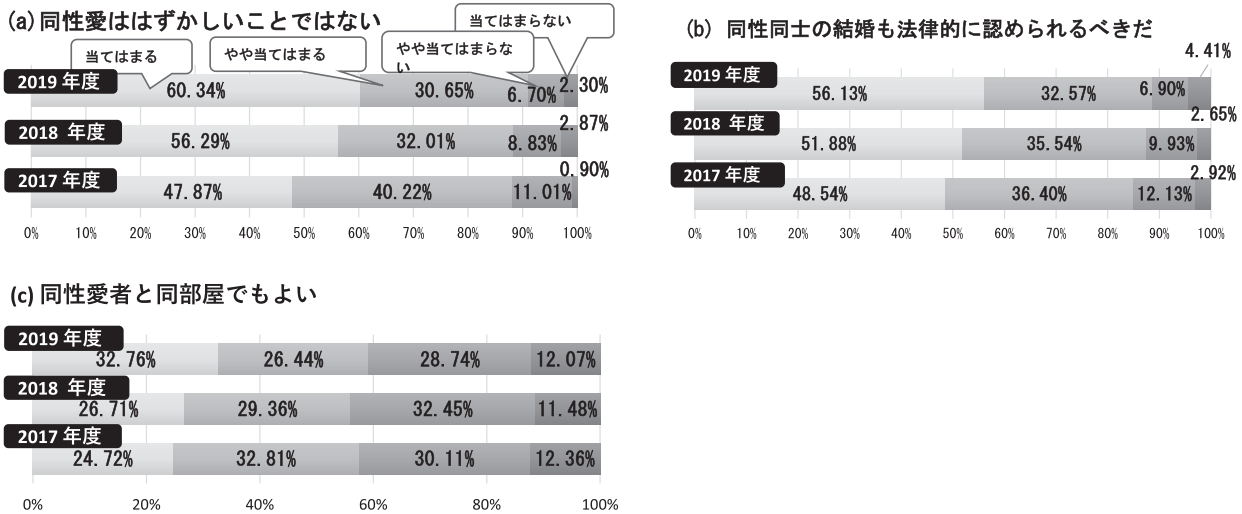


図 E 同性愛に関する肯定的見解への同意の度合い 3 か年の比較 (2017 年度～2019 年度)

(添付資料 2) 質問文と回答別割合 (%)

問 1 あなたの近い友人や知人、親戚や家族など身近な方に以下に挙げる人はいますか。

1.1 同性愛者

いる [10.7%], そうかも知れない人がいる [11.3%], いないと思う [35.8%], いない [41.6%], その他・答えたくない [0.6%]

1.2 性同一性障害の人

いる [4.0%], そうかも知れない人がいる [8.0%], いないと思う [41.0%], いない [46.4%], その他・答えたくない [0.6%]

問 2 つぎのうち、あなたがこれまで性的マイノリティに関して話をしたことがある人は誰ですか。当てはまる人全てにチェックを入れて下さい。(複数選択可)

父親 [58 人, 11.1%], 母親 [135 人, 25.9%], 祖父 [4 人, 0.8%], 祖母 [7 人, 1.3%], 同性のきょうだい [38 人, 7.3%], 異性のきょうだい [29 人, 5.6%], 友人 [240 人, 46.0%], 恋人 [40 人, 7.7%], 教師 [42 人, 8.0%], いない [213 人, 40.8%], その他 [8 人, 1.5%], 答えたくない [3 人, 0.6%]

問 3 あなたは、テレビ、新聞、書籍、雑誌、ラジオ、マンガ、インターネットなどで、同性愛、性別を変えた、性同一性障害などが扱われているのを見聞きしたりしたことがありますか。当てはまるもの全てにチェックを入れて下さい。(複数選択可)

見聞きしたことはない [16 人, 3.1%], テレビ (報道・教養番組) [374 人, 71.6%], テレビ (娯楽番組) [225 人, 43.1%], テレビドラマ・映画 [256 人, 49.0%], 新聞・書籍 [143 人, 27.4%], 雑誌 [49 人, 9.4%], ラジオ [24 人, 4.6%], 女性向けマンガ・コミック [140 人, 26.8%], 男性向けマンガ・コミック [77 人, 14.8%], インターネット (メール、ウェブなど) [136 人, 26.1%], インターネット (フェイスブック、ツイッター、LINE など) [164 人, 31.4%], その他 [14 人, 2.7%], 答えたくない [1 人, 0.2%]

問 4 以下は「同性愛」および「性同一性障害」に関する知識を問う問題です。以下の記述は正しいと思いますか、正しくないと思いますか。各記述に対して解答を一つ選んでください。

4.1 「性同一性障害と同性愛は同じである」(正解:「正しくない」)

正しい [2.7%], 正しくない [73.0%], わからない [24.3%], その他・答えたくない [0%]

4.2 「日本では、同性愛は精神病とされる」(正解:「正しくない」)

正しい [4.4%], 正しくない [61.1%], わからない [33.9%], その他・答えたくない [0.6%]

4.3 「日本では、戸籍上の性別を変えることができる」(正解:「正しい」)

正しい [50.8%], 正しくない [18.2%], わからない [30.8%], その他・答えたくない [0.2%]

- 4.4 「性同一性障害とは性自認と身体的性別が一致していない状態につけられた疾患名である」(正解:正しい)
正しい [74.3%], 正しくない [4.2%], わからない [21.5%], その他・答えたくない [0%]
- 4.5 「性同一性障害は手術によって完治できる」(正解:「正しくない」)
正しい [5.2%], 正しくない [56.3%], わからない [38.1%], その他・答えたくない [0.4%]
-

問5 あなたは、同性愛者、性別を変えた方、性同一性障害などについて正しい知識を身につけたいと思いますか。

とてもそう思う [41.2%], 思う [43.1%], それほど思わない [13.4%], 思わない [0%], その他・答えたくない [2.3%]

- 5.1 「あなたの知人」が「同性愛者」だったら、あるいは「性同一性障害の人」だったら、あなたはどのように思いますか。
あなたの気持ちにもっとも近いものを1つ選んでください。

5.1.1 同性愛者

嫌ではない [64.9%], どちらかといえば嫌ではない [22.0%], どちらかといえば嫌だ [10.3%], 嫌だ [1.0%],
その他・答えたくない [1.7%]

- 5.1.2 嫌ではない [66.3%], どちらかといえば嫌ではない [21.8%], どちらかといえば嫌だ [9.2%], 嫌だ [1.1%],
その他・答えたくない [1.5%]

- 5.2 「同じ大学の人」が「同性愛者」だったら、あるいは「性同一性障害の人」だったら、あなたはどのように思いますか。
あなたの気持ちにもっとも近いものを1つ選んでください。

5.2.1 同性愛者

嫌ではない [65.5%], どちらかといえば嫌ではない [22.6%], どちらかといえば嫌だ [9.8%], 嫌だ [1.1%],
その他・答えたくない [1.0%]

5.2.2 性同一性障害の人

嫌ではない [67.4%], どちらかといえば嫌ではない [23.0%], どちらかといえば嫌だ [7.7%], 嫌だ [1.1%],
その他・答えたくない [0.8%]

- 5.3 「あなたのきょうだい」が「同性愛者」だったら、あるいは「性同一性障害の人」だったら、あなたはどのように思いますか。
あなたの気持ちにもっとも近いものを1つ選んでください。

5.3.1 同性愛者

嫌ではない [50.4%], どちらかといえば嫌ではない [20.7%], どちらかといえば嫌だ [21.3%], 嫌だ [6.5%],
その他・答えたくない [1.1%]

5.3.2 性同一性障害の人

嫌ではない [50.8%], どちらかといえば嫌ではない [19.7%], どちらかといえば嫌だ [21.8%], 嫌だ [6.5%],
その他・答えたくない [1.1%]

問6 あなたが仮に、仲の良い同性の友人から「同性愛者」であると告げられたとしたら(カミングアウトされたとしたら),
どのような気持ちになると思いますか。以下のそれぞれの気持ちについて、最も当てはまるものをそれぞれ1つ選んで
ください。

6.1 言ってくれてうれしい

当てはまる [53.6%], やや当てはまる [32.6%], あまり当てはまらない [11.9%], 当てはまらない [1.9%]

6.2 理解したい

当てはまる [69.3%], やや当てはまる [25.3%], あまり当てはまらない [4.4%], 当てはまらない [1.0%]

6.3 かわいそう

当てはまる [2.7%], やや当てはまる [8.4%], あまり当てはまらない [41.0%], 当てはまらない [47.9%]

6.4 興味が出てくる

当てはまる [17.2%], やや当てはまる [39.5%], あまり当てはまらない [31.2%], 当てはまらない [12.1%]

6.5 寄り添いたい

当てはまる [36.0%], やや当てはまる [42.7%], あまり当てはまらない [17.6%], 当てはまらない [3.6%]

6.6 身の危険を感じる

当てはまる [0.6%], やや当てはまる [9.0%], あまり当てはまらない [34.7%], 当てはまらない [55.7%]

6.7 気持ち悪い

当てはまる [1.1%], やや当てはまる [5.2%], あまり当てはまらない [30.1%], 当てはまらない [63.6%]

- 6.8 迷惑だ
 当てはまる [0.6%], やや当てはまる [4.2%], あまり当てはまらない [27.6%], 当てはまらない [67.6%]
- 6.9 大変なことになった
 当てはまる [2.9%], やや当てはまる [17.2%], あまり当てはまらない [29.5%], 当てはまらない [50.4%]
- 6.10 自分なら治してあげられる
 当てはまる [0%], やや当てはまる [2.5%], あまり当てはまらない [27.0%], 当てはまらない [70.5%]
- 6.11 聞かなかったことにしたい
 当てはまる [2.5%], やや当てはまる [6.9%], あまり当てはまらない [29.7%], 当てはまらない [60.9%]
- 6.12 どうでもいい
 当てはまる [3.6%], やや当てはまる [9.8%], あまり当てはまらない [27.6%], 当てはまらない [59.0%]

問7 以下のそれぞれの考えに対してあなたはどのように感じていますか。次のそれぞれの項目について当てはまるものをお答えください。

- 7.1 「自分が男性／女性であることに誇りを持っている」
 とてもそう思う [28.0%], そう思う [30.1%], どちらでもない [32.8%], あまりそう思わない [7.1%], 全くそう思わない [1.5%], その他・答えたくない [0.4%]
- 7.2 「自分が男性／女性であることに満足している」
 とてもそう思う [37.2%], そう思う [35.8%], どちらでもない [20.9%], あまりそう思わない [4.8%], 全くそう思わない [1.0%], その他・答えたくない [0.2%]
- 7.3 「自分が男性／女性であることを重要に考えている」
 とてもそう思う [23.8%], そう思う [25.7%], どちらでもない [35.6%], あまりそう思わない [11.3%], 全くそう思わない [3.3%], その他・答えたくない [0.2%]

問8 以下の「同性愛に関する」意見や考えに対してあなたはどのように感じていますか。次のそれぞれの項目について当てはまるものをお答えください。

- 8.1 同性愛は不道徳だ
 当てはまる [0.6%], やや当てはまる [1.1%], あまり当てはまらない [28.2%], 当てはまらない [70.1%]
- 8.2 同性に恋愛感情を持たれるのは嫌だ
 当てはまる [5.6%], やや当てはまる [24.5%], あまり当てはまらない [33.1%], 当てはまらない [36.8%]
- 8.3 同性愛者と同部屋でもよい
 当てはまる [32.8%], やや当てはまる [26.4%], あまり当てはまらない [28.7%], 当てはまらない [12.1%]
- 8.4 同性同士の結婚も法律的に認められるべきだ
 当てはまる [56.1%], やや当てはまる [32.6%], あまり当てはまらない [6.9%], 当てはまらない [4.4%]
- 8.5 同性愛は恥ずかしいことではない
 当てはまる [60.3%], やや当てはまる [30.7%], あまり当てはまらない [6.7%], 当てはまらない [2.3%]
- 8.6 同性愛者と異性愛者は生物学的に異なっている
 当てはまる [8.8%], やや当てはまる [19.5%], あまり当てはまらない [33.3%], 当てはまらない [38.3%]

問9 以下はあなたの意見や考えについてお聞きします。次のそれぞれの項目について当てはまるものをお答えください。

- 9.1 友人から聞いた噂話をそのまま信じ込まない
 当てはまる [19.5%], やや当てはまる [48.9%], あまり当てはまらない [28.5%], 当てはまらない [3.1%]
- 9.2 どうしてもやらなければならないことがあるときには誘われても遊びに行くのを我慢する
 当てはまる [35.1%], やや当てはまる [42.1%], あまり当てはまらない [20.7%], 当てはまらない [2.1%]
- 9.3 相手の立場を考えずに悪口を言うてしまうことがある
 当てはまる [6.7%], やや当てはまる [38.7%], あまり当てはまらない [42.3%], 当てはまらない [12.3%]
- 9.4 絶対にばれないと思ったら悪いことをしてしまう
 当てはまる [6.3%], やや当てはまる [36.6%], あまり当てはまらない [37.7%], 当てはまらない [19.3%]
- 9.5 家庭のこまごまとした管理は女性でなくてはと思う
 当てはまる [5.4%], やや当てはまる [18.6%], あまり当てはまらない [39.8%], 当てはまらない [36.2%]

9.6 男はむやみに弱音を吐くものではない

当てはまる [5.6%], やや当てはまる [22.6%], あまり当てはまらない [37.0%], 当てはまらない [34.9%]

9.7 男性の性欲は概して女性に比べて強い

当てはまる [14.8%], やや当てはまる [44.8%], あまり当てはまらない [26.1%], 当てはまらない [14.4%]

9.8 辛い気持ちや不安な気持ちなどを身近な人に相談したときに, 相手から共感された, 理解された, 分かってもらえたと感じたことがある

当てはまる [52.5%], やや当てはまる [38.5%], あまり当てはまらない [7.5%], 当てはまらない [1.5%]

9.9 辛い気持ちや不安な気持ちなどを身近な人から相談されたときに, 相手に共感し, 理解し, 分かったと感じたことがある

当てはまる [47.9%], やや当てはまる [46.2%], あまり当てはまらない [4.8%], 当てはまらない [1.1%]

(調査対象となった大学との取り決めにより, 項目を一部削除しています)

Awareness and behavior of university students toward sexual minorities: PART 4
— Trends found via analysis of a four-year questionnaire survey —

Keiko Masaki¹⁾, Hiroshi Ogura²⁾, Fumio Sunaga^{*2)},
Norimitsu Kurata²⁾ and Hiroyuki Horikawa²⁾

Abstract — This paper forms the fourth of a five-part series on the attitudes of first-year medical/healthcare university students toward sexual minorities. We summarize the outcomes and inferences emerging from the questionnaire survey conducted in 2019. Similar to the three previous surveys, the respondents completed an online survey via smartphones. The results indicate that the homophobic attitudes of adolescents toward close friends or family have become less common. Moreover, they have become more motivated to gain an in-depth understanding of human sexuality and gender identity. The majority of the respondents feel uncomfortable with gender roles, norms, and stereotypes. Lastly, their empathetic understanding of sexual minorities has been strengthened substantially. In addition, their view of these groups has become increasingly positive. Notably, the majority of respondents (84%; n = 522) expressed the desire to be enlightened regarding the issues related to sexual orientation and gender identity. On the basis of these insights, we conclude that schools should create an environment in which learners can develop high levels of knowledge about sexual and gender minorities. Furthermore, teachers should be encouraged to foster a symbiotic society that culturally accepts and intellectually respects differences.

Key words: sexual minorities, online-survey, homophobia

[Received March 16, 2021 : Accepted June 1, 2021]

¹⁾Office of Academic Affairs, Showa University

²⁾Faculty of Arts and Sciences at Fujiyoshida, Showa University

* To whom corresponding should be addressed